

# 大もうけ

ようやく始めた米軍基地内での商売は覚悟していたものの、一ドル五〇円という当時の為替のせいで赤字がどんどん膨らんだ。最初の読みが外れ、一年た

## 私の履歴書

一 匡 頭 江  
いち きょう ぎら が え

⑦

くるから、憲子、あなたは実家に甘えて残ってくれ」とまで言ったものだ。

そんなある日、福岡市の繁華街、天神で西鉄電車を降りた途端に、電柱にはられた号外にくぎ付けになった。そこには「一ドル二七〇円に決定」と書かれている。あまりの歓喜に、しばし我を忘れた。あたかもテキサスで石油を掘り当て、噴出するドロドロの原油を浴びて喜ぶと

### 1ドル270円、借金苦一転

#### 事業拡大、手当たり次第

入れて車で自宅に持ち帰った。何しろ、千円札も五百円札もないころのこと。今の一万円札ならば三億円の札束だ。ずっしり重い大きな箱を二つ、ようやく家に入れると、札束を床の間の板をはずして隠し、いくつかをタオルに巻いてまくらにして寝た。興奮を抑え切れず、一晩中まんじりともできなかつた。基地で火事にあつた後、私た

いう米国映画の一シーンのように。気を静め、小躍りしながら六月分の売上金を受け取りに基地に走つた。一九四八年七月、二十五歳のことだ。

突然円の支払額が五倍以上に膨らんだので、担当将校も欲を出してきた。三百万円の札束を前にして、半分を寄越せと言いつ張る。それを振り切り、急いでカチカチの百円札の束をたばこのラッキーストライクの空箱に

ち一家は、家内の実家である水野家で六畳一間の間借り生活を余儀なくされていた。さっそく三千平方尺を超える元炭鉱主の邸宅を借りて移つた。四八年型のシボレーを手に入れたのもこのころだ。

当時、日本人はほとんど持っていなかつたシボレーを駆って向かつたのが、母校の嘉穂中学（現嘉穂高校）だった。「故郷に錦を飾る」というが、私はそ

っても為替が有利になる気配はない。手持ち資金は底をつき借金も雪だるま式に増えた。借金の取りに追われ家にも帰れない。いよいよ窮まった私はもう、夜逃げしかないと覚悟を決めた。「大阪で二旗揚げて、せめて担保に入っている水野の病院が取られないだけの金を稼いで

れとは程遠い。夕暮れのだけれもない校庭。ここをゆっくり三周ほどしながら、心の中で「見てみる。劣等生扱いされた私だつてできるんだぞ」と叫んだ。

母校を訪れたのは卒業後、これが初めてだ。二度目は十年前に母校に講師で招かれたとき、熊本と九州各地に販路は広がった。



一気は事業など工場パンに拡大(背広姿が筆者)

あるとき、国際興業社主の小佐野賢治氏と米国中古車三百数十台の払い下げ入札で競り合うことになった。私は折あしく穿孔(せんこう)性腹膜炎で入院中。会社の幹部二人が東京での入札に参加したが、全部を小佐野氏が落とした。結果を病

「望みなさい。叶えられます」という演題で、開校記念日に後輩を前に講演した。「問題児だった私でも、一生懸命努力すれば、必ず夢を実現できる」という内容で話しをしたが、面ほゆい気持ちだった。

指し商人の仕事はその後も順調で次々と事業を拡大。ラジオ、ソのようにもうかつた。

指し商人の仕事はその後も順調で次々と事業を拡大。ラジオ、ソのようにもうかつた。

指し商人の仕事はその後も順調で次々と事業を拡大。ラジオ、ソのようにもうかつた。

指し商人の仕事はその後も順調で次々と事業を拡大。ラジオ、ソのようにもうかつた。

指し商人の仕事はその後も順調で次々と事業を拡大。ラジオ、ソのようにもうかつた。

(ロイヤル創業者取締役)